北から南から

聴覚障害者の視点に立った防災対策及び聴覚障害者支援に関する啓発活動への取り組み

愛知県 豊橋手話通訳学習者の会
会長 平松 靖一郎（手話通訳士）

1 はじめに

豊橋手話通訳学習者の会は、1982年4月に設立して以来今日まで約40年間、聴覚障害者福祉の向上に向けて、豊橋市聴覚障害者協会と共に様々な活動を続けてきました。

2 防災対策に関わることで気付くこと

阪神淡路大震災や東日本大震災をきっかけに、大規模災害が発生した際には、聴覚障害者に対する理解不足や、情報保障が不十分で、聴覚障害者が災害弱者として厳しい状況におかれていることが注目されるようになりました。私たちは、このことを解決していくためには、当事者からの教訓を活かし、日頃からのまちづくりに取り組むことが大切だと考えました。障害者支援に関わる団体として、日頃から、地域の防災訓練に参加するとともに、行政機関及び関係団体との合同会議に積極的に参加することを組織的に行いました。なかでも、訓練に参加してきたからこそ分かる課題を顕在化させ、支援が不十分な事項の改善に重点を置いて活動しています。

3 聴覚障害者の視点に立った防災対策

大規模災害が発生した際に、聴覚障害者は、どこの避難所に避難するでしょうか。そして、避難所で行われていることはしっかりと伝わっているでしょうか。また、聴覚障害者が居ることを回りの人たちが認知してくれているでしょうか。手話通訳派遣が制度化され、地域で行われる防災訓練に参加する聴覚障害者の方は、増えたかもしれません。しかし、毎回のように、初めて参加したという聴覚障害者の方に出会います。訓練に参加した聴覚障害者の方からは、「災害関連の用語が難しく、充分に理解できなかった。」「避難所のあちこちで音声言語による情報発信が多く、疎外感を感じる場面が多々あった。」という声を聞きます。このことは、今でも現場は、音声による情報発信が中心であることを感じさせます。また絵や文字による情報の必要性も痛感します。

■聴覚障害者理解の促進活動の実施

大規模災害発生時は、誰もが被災者になります。手話通訳者がすぐに派遣されることは期待できません。だから、まずは地域の人たちに聴覚障害者の特性を理解してもらうことが大切です。これを実現する為に「聴覚障害者自主防災ガイドブック」を制作し配布しました。また、市内各所で開催される様々な行事に、出来る限りその地域に住む聴覚障害者が参加するようにして、地域住民との交流機会を増やすように努めました。外見からは理解されにくい聴覚障害者も地域の一員であるという意識を高める活動に取り組みました。

■聴覚障害者の避難所実態調査の実施

分かっているようで分かっていない避難所。日頃から交流している聴覚障害者や手話のできる支援者が、実際にどこの避難所に避難するのかを調査しました。どこの避難所に聴覚障害者の方が避難するのか。ま

地区応急救護所開設訓練で実施した
聴覚障害者対応訓練の様子

豊橋市消防本部中署で開催した
聴覚障害者対応訓練の様子

豊橋市薬剤師会との
「薬に関する絵カード」制作に向けた学習会

地元の豊橋創造大学で開催した「防災フェス」の様子

た、手話の出来る人がどこの避難所に避難するのかを事前に把握することで、聴覚障害者が孤立する可能性の高い避難所を顕在化させ、大規模災害発生時の支援体制のルール化に取り組みました。

■「避難所でのお知らせ絵カード」等の普及活動の実施

聴覚障害者の方と共に制作した「避難所でのお知らせ絵カード」等を実際に使用してもらう為に、避難所開設訓練等へ積極的に参加するとともに、避難所開設要員等の方々への研修会開催の働き掛けを行いました。

■防災対策活動関係団体との連携活動の実施

消防署や保健所、応急救護所関係スタッフ（団体）との合同訓練や学習会などを開催しました。そして、実施報告書を作成し、私たちが感じた課題を関係団体にフィードバックするように心掛け、聴覚障害者の視点を発信し続けるようにしました。2021年度は、豊橋市薬剤師会の方々の協力を受けて制作した「薬に関する絵カード」の普及活動を始める予定です。

4 まとめ

聴覚障害者に対する一番の防災対策は、地域の中に聴覚障害者が居ることを広く市民の方々に知ってもらい、聴覚障害者の視点を浸透させていくことだと思います。つまり、聴覚障害者も含めた自助・共助の活動を定着させるたるに、組織的・継続的・献身的に活動することが重要だと考えています。